

関西の活かしたい自然エリア（エリア2 大阪湾とその沿岸） エコツアー体験学習に代わる現地視察の報告

1. 目的

関西広域連合では、23の「関西の活かしたい自然エリア」を選定し、各エリアの保全・活用を進めるためにエコツアーへの活用を検討しています。そして、行政や活動団体、旅行会社、教育機関等が自然エリアを活用しエコツアーを企画・運営する際の足掛かりとしてもらう目的で、各エリアについてモデルコースを設定し、毎年1エリアずつ「エコツアー体験学習」を実施してきました。モデルコースには、地域の食材を堪能できる昼食や宿泊先も取り入れています。

しかし、今年度はコロナ禍によりエコツアー体験学習の実施が難しくなったため、代替として事務局による現地視察を行いモデルコースの実行性を検証しました。

2. 実施日

令和3年11月5日（金）～6日（土）（1泊2日）

3. 対象地と訪問地

- 対象地：エリア2 大阪湾とその沿岸
- 訪問地

	訪問地	所在地	主な視察内容
1日目	①大和島、絵島	兵庫県淡路市岩屋	大和島のイブキ群落、絵島の地形・地質
	昼食（新島水産）	兵庫県洲本市由良町由良	
	②成ヶ島		海浜環境と動植物観察
	宿泊（日月館）		
2日目	昼食（魚てつ）	大阪府泉南郡岬町多奈川谷川	
	③せんなん里海公園	大阪府阪南市箱作～泉南郡岬町淡輪	
	④箱作の自然海岸	大阪府阪南市箱作	
	⑤西鳥取漁港	大阪府阪南市鳥取	

注1) ①～⑤が地域資源の視察先。

注2) 移動は基本的に車で行ったが、2日目の淡路島～大阪府泉郡の移動には船舶を使用した。

4. 実施行程

実施行程（実績）	
1日目	9:00 JR「三宮」駅 集合 ↓ (車両1台で移動、45分) 10:00 ①大和島、絵島 1.5H (ガイドなし) ・大和島のイブキ群落、絵島の地形・地質を観察 0.5H ↓ (車両1台で移動、50分) 11:30 由良港 昼食 1.0H ・「新島水産」の施設・メニュー等確認、魚貝軽食を購入 0.5H ↓ ※その後、渡船乗り場へ車で移動 12:30 渡船乗り場発 ↓ (由良港の由良支所北棧橋から渡船を利用：2分) 12:35 ②成ヶ島 3.0H ・海浜環境と動植物観察 3.0H ↓ ・ガイド：国立公園成ヶ島を美しくする会（成美会） 15:23 成ヶ島発 ↓ (渡船5分) 15:30 渡船乗り場着 ↓ (車で移動) 16:00 宿泊地「日月館」着 ・施設・夕食の撮影・取材
2日目	8:30 朝食後、宿泊地を出発 ↓ (車で移動) 9:00 洲本港着 9:15 洲本港発 ↓ (2名は深日洲本ライナーで、1名は車で移動) 10:10 深日港着 ↓ (徒歩で移動) 10:30 深日漁港市場 1.0H ・漁港周辺の見学 1.0H ↓ (徒歩) 11:30 昼食 1.0H ・「魚てつ」で新鮮魚貝料理 ↓ (車で移動) 13:00 ③せんなん里海公園 ③～⑤で 3.0H ④箱作の自然海岸 ⑤西鳥取漁港 ↓ ・③～⑤のガイド：チーム☆ガサ（任意団体）、(株)漁師鮮度 16:00 ツアー終了（→JR「大阪」駅へ）
コース図	 青：1日目の行程 赤：2日目の行程 ※JR「三宮」駅～大和島及び西鳥取漁港市場～JR「大阪」駅への行程は省略

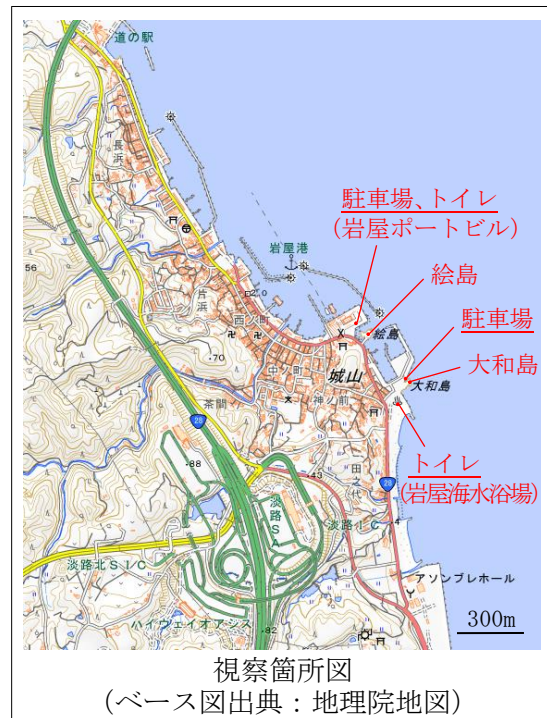
5. 各訪問地の概要と当日の様子

5.1 地域資源①：大和島、絵島

(1) 当地の概要

大和島は高さ 25m、周囲 180m、面積 0.5ha を有する淡路島本島とつながっている陸続きの小島です。砂岩や礫岩からなり、島の周囲は波浪で削られ、この形状から、植物は中腹以上に群生し、いわゆる岩上植生となっています。植物群落としては、イブキが優占したウバメガシ、クロマツの植生があります。数百年もの間、風雪や波浪にも耐えて生育しているこの地のイブキ群落は生態学上貴重な自然です。

絵島は、大和島に近接して在る高さ 20m の小島で、国生み神話に登場する「おのころ島」伝承地の一つです。砂岩が風化して浸食したまだら模様の岩肌が美しく、この造形美がおのころ島に見たてられたと考えられています。古くから景勝地として知られ、多くの和歌に詠まれています。植物はクロマツが多く生育しています。



(2) 当日の様子

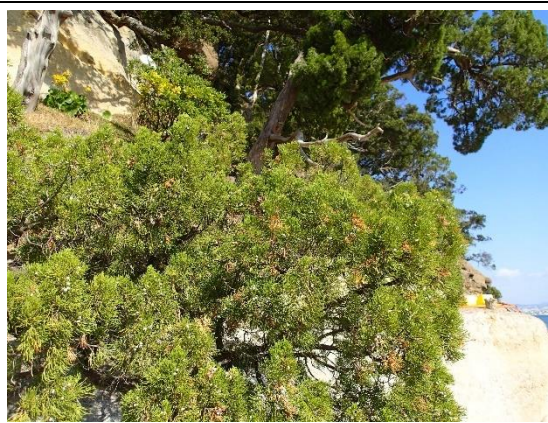
大和島は、立ち入りが禁止されており周囲を歩くことができなかったため、周辺からの確認になりました。植物については、海浜部や島に近づくことができる場所からイブキ群落のほか、クロマツ、ウバメガシ、マサキ等、林床にツワブキの開花やシダ植物のヒトツバを観察することができました。地形・地質についても同様に、遠隔・近接で観察することができました。

絵島は、橋を渡り上陸することができるようになっていますが、当日は立ち入りが禁止されていたため、対岸から地形や岩盤側面の微地形や模様等を観察しました。

【写真】地域資源①：大和島、絵島



大和島



イブキ（大和島）



海浜部の「岩屋海水浴場」トイレ（閉鎖中）、
正面右手に大和島



大和島の駐車場（赤破線）、
画像右手は大和島、正面は岩屋漁港



大和島から絵島へ徒歩移動（岩屋漁港内）



絵島と絵島に渡る橋（橋は閉鎖中）



岩盤側面の多様な微地形や模様（絵島）



岩屋港「岩屋ポートビル」

5.2 昼食（1日目）：由良港「新島水産」

（１）「新島水産」について

洲本市由良にある水産卸会社で、直営の料理店が併設されています。近海で獲れる地場の魚介類を味わうことができ、特に活け貝の磯焼きが名物とされるほか、夏は鰯（ハモ）や由良の赤うに、冬は淡路島3年とらふぐなど旬の海産物が堪能できます。

（２）当日の様子

当日は、店舗にメディアの撮影隊が入っていました。店舗自体は簡素な施設でしたが、地場産業を体感しながら新鮮な海産物が堪能できる店舗となっていました。店舗に併設されている生け簀では水揚げされた海産物を見ることができ、地元料理店の方が買い付けに来るなど、盛況な様子が見てとれました。

次の行程との時間の関係で店舗での昼食を取ることはできなかったため、名物の一つであり淡路島産のタコとタマネギを使用したタココロケ（持ち帰り可能）のみを購入・試食しました。



【写真】昼食（1日目）：由良港「新島水産」

		
店舗の様子(メディアによる撮影中)	生け簀の様子	名物のタココロケ
		
提供される食事メニュー	屋外の飲食スペース	駐車場 (画像右下。画像外にもあり)

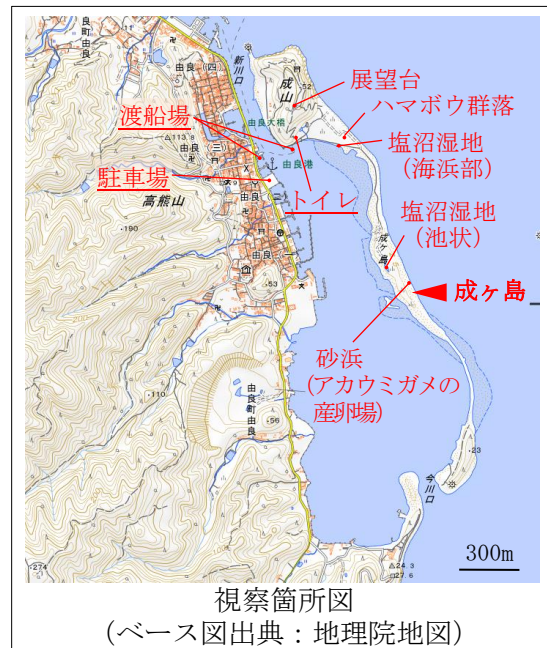
5.3 地域資源②：成ヶ島

(1) 当地の概要

成ヶ島は、昭和 25 年に瀬戸内海国立公園に指定された地域で、大阪湾の入り口に位置する淡路島東端の小島です。地形は北側の成山と南側の高崎を結ぶ約 3 km の砂州によって形成され、外洋側の砂礫海岸、由良湾側の干潟からなる自然海岸です。

島の中央部には塩沼地、塩沼湿地があり、ハママツナやハマサジ、アイアシ等の海浜植物やハクセンシオマネキ、スジエビモドキ等の塩沼地に生息する海岸動物等、大阪湾における学術上貴重な自然環境が多く残されています。

現在当地では、①ゴミの漂着、②外来植物の繁茂、③シカ害等の問題が顕在化しています。海流の関係から、大阪湾を漂流したゴミが大量に漂着、堆積し、美観を損ねているとともに貴重な海浜植物や海浜動物の生育、生息を脅かしています。また、ナルトサワギク、アレチウリなどの特定外来生物の生育も確認されている。近年ではシカの生息も確認され、生態系への影響が懸念されています。



(2) 当日の様子【ガイド：国立公園成ヶ島を美しくする会（成美会）】

植物については、既設の道路を周遊しながら、大木に成長したハマボウ群落の林内に入り植生を体験的に観察したほか、海浜植物としてハマユウ、ハマゴウ、アイアシ、ウラギク、シオクグ、ケウバメガシ、ハマナタマメ、ハマウド、ツワブキなどを観察しました。海浜部の塩沼湿地においては、ハママツナ、ハマサジ、ホソバハマアカザなどの生育が確認でき、ハママツナは赤く紅葉した様子が見ることができました。また、島内には池状の塩沼湿地もあることを確認し、周辺に生育するハマボウの開花やウバメガシ(現地ではケウバメガシと説明あり)等を観察しました。

動物については、アカウミガメが産卵のために上陸する砂浜を視察し、新しい砂が供給されるため菌類が少なく、卵にとって良い環境となっているとの解説を受けました。また、海浜部の塩沼湿地ではキタフナムシという海藻など植物質のものだけを食べる北方系のフナムシを観察しました。あわせて江戸期から明治期の北前船で運ばれてきた可能性があることや、北前船で一時代を築いた豪商として知られる淡路島生まれの高田屋嘉兵衛についての解説もありました。その他、アシハラガニの巣穴観察等も行いました。

(3) 成ヶ島の課題

視察内容の検討・調整や現地視察やヒアリング結果から、当地の魅力を再認識できた一方で、エコツアーで訪問する場合の課題として、オーバーユースや漂着ゴミ問題があることも体感できました。その他にも、本来はいないシカの侵入が確認されていることも知りました。

成ヶ島の課題は地域あるいは国立公園の課題であるとともに、エコツアー参加者等も含めその場所を利用する者の課題ともいえます。その点から、エコツアー実施時には、関係者間で十分な調整と認識の共有を図った上で、コース設定やガイド内容にうまく取り入れることが肝要と考えられました。

【写真】地域資源②：成ヶ島

	
成ヶ島の全景（展望台より）	ハマボウ群落
	
島内の塩沼湿地（池状）	ハママツナの紅葉（海浜部の塩沼湿地）
	
アカウミガメの産卵場となる砂浜	島内のトイレ施設（閉鎖中）
	
渡船場（由良漁港側、正面は成ヶ島）	駐車場（由良港側渡船場の近隣地）

5.4 宿泊：仲買人の料理旅館「日月館」

(1)「日月館」について

成ヶ島への渡船発着の前に位置し、全客室から東側に面した紀淡海峡のオーシャンビューが楽しめます。海辺の宿で仲買人でもある主人が選りすぐった、四季折々の新鮮な海の幸を堪能することができます。

(2) 当日の様子

宿は成ヶ島への渡船発着港の前に位置するため、視察行程終了後、すぐに宿に到着できました。宿の室内は広く、清潔に保たれており、部屋からは由良港及びオーシャンビューを望むことができ、全室が東に面していることから特に日の出を堪能できました。

本宿の魅力の一つである夕食は、宿泊料金内で地元で水揚げされた様々な新鮮な海の幸が提供され、十分に堪能することができました。

そのほか、徒歩圏内には集落が広がるが、そのなかに山を背後に荘厳な風格を醸す由良湊神社や、住居に隣接した漁船停泊港がある昔ながらの漁師町など、由良地域の自然や暮らしを感じ楽しむことができる環境でした。



【写真】仲買人の料理旅館「日月館」

	
地元の海の幸が堪能できる夕食	宿の前に広がる夜明けと由良港

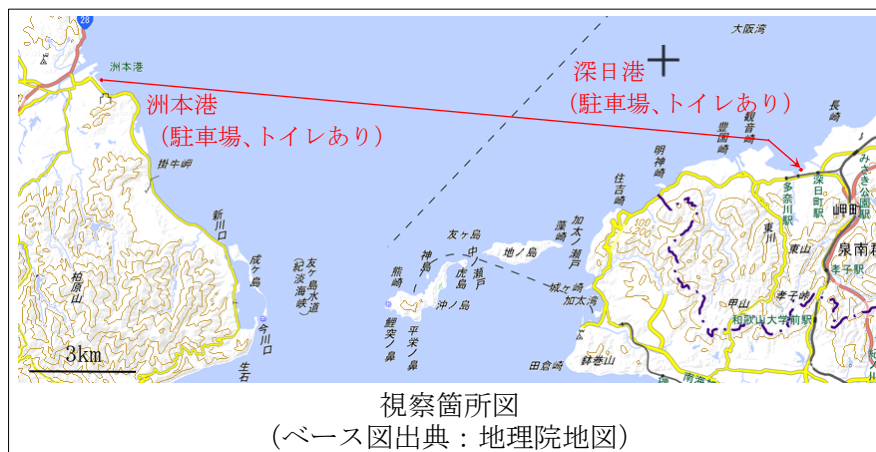
5.5 船舶による移動：深日洲本ライナー（淡路島・洲本港⇒大阪府泉南郡岬町・深日港）

（１）深日港、深日漁港について

深日港は、1948年に完成、大阪と淡路島・徳島を結ぶ最短ルートとしてにぎわいましたが、1998年の明石海峡大橋の開通による航路再編で相次いで航路が廃止されました。今年度は11月28日まで土、

日、祝日の限定運航が実施されていたので、今回はそれを利用しました。

深日港から約700mにある深日漁港では、水揚げされた新鮮な魚介類を出漁した日の15時頃から魚市場で販売されますが、市場は祝日の前日と水曜日、土曜日は休みとなります。また、漁港内には海上釣り堀があります。



（２）当日の様子

洲本港より乗船した深日洲本ライナーは、友ヶ島や地ノ島等の景観を望みながら、所定時間（約55分）で深日港に到着しました。深日港では多くの釣り客が釣りを楽しんでいました。

深日漁港は、土曜日であったため市場が休みであり、漁業関係者も少なかったため、水揚げされた水産物の状況等については十分に確認できませんでした。

（３）深日洲本ライナーの課題について

今回の視察で利用した深日洲本ライナーは社会実験運航であり、時限的な取組となっています。令和3年度は6/26～11/28の運行期間を終了し、次年度以降の継続については未定となっています。紀淡海峡（友ヶ島水道）を渡る航路が得られなければ、淡路島－大阪間の海路を利用した最短移動が難しくなり、今回の視察コースの実現も難しくなる点が課題です。

【写真】船舶による移動：深日洲本ライナー（淡路島・洲本港⇒大阪府泉南郡岬町・深日港）



5.6 昼食（2日目）：お食事処 鮮魚商「魚てつ」

（１）「魚てつ」について

魚屋が営む地魚料理の食事処で、生け簀から魚貝を選んで食することができます。魚売り場を併設しているため、魚を買い求めることもできます。

南海多奈川線の「深日港駅」から徒歩約7分、「多奈川駅」から徒歩約1分の場所に位置します。

（２）当日の様子

店舗までは、深日漁港より南海多奈川線沿いの府道65号線沿いを徒歩で移動しました。移動時間は7分程度でした。

当日は昼食時であったため、店内は常時満席の状態で、利用者は地元の方が多く印象でした。昼食の価格帯は、¥1,000～2,000程度でした。メニューは、深日港に水揚げされた魚を中心とした魚料理が豊富に用意されていました。鮮度が高くボリュームもある内容で、リーズナブルな価格で新鮮な海の幸を充分堪能できる店舗でした。



【写真】昼食（2日目）：お食事処 鮮魚商「魚てつ」

		
地元の海産物を味わえる食事メニュー		
		
魚売り場	店内の生け簀	店舗の外観

5.7 地域資源③：せんなん里海公園、地域資源④：箱作の自然海岸、地域資源⑤：西鳥取漁港

藻場の観察ができる場所であることを目的に、大阪・泉南地域の「せんなん里海公園」、「箱作の自然海岸」、「西鳥取漁港」の3ヶ所を一連の訪問先として視察しました。藻場については、視察時期が観察の適期（藻場の生長期）ではなかったため、適期に訪問した場合の実施可能な内容に関するヒアリング・視察結果が主な報告内容となります。

3ヶ所の訪問先と詳細な場所を以下に示します。



<大阪湾の藻場>

大阪湾の藻場は、大阪府南部や淡路島北部から西部にかけて点的に分布している。中でも、淡路島 - 大阪泉南間の海域である成ヶ島～友ヶ島～尾崎・箱作周辺では、「アマモ場」、「ガラモ場」、「カジメ場」等が分布しており、尾崎～箱作の藻場は大阪湾内で大きな面積を誇っている。

藻場とは海藻が茂る場所のことで、海藻の構成種によって分類され、波当たりや光量、海底の地形により分布域が異なる。藻場は魚貝類の産卵場、生育場、餌場としての役割を果たし、豊かな生態系が形成される。また、光合成による酸素の供給、生物による栄養塩類の消費・分解によって海の水質を浄化する重要な役割を担っている。近年では沿岸の埋立工事や水質汚濁等の影響による藻場の消滅も見られ、藻場の保全や再生等の取り組みも進められている。

（１）当地の概要

■地域資源③：せんなん里海公園

当地は大阪府の南端にある大阪府営の公園で、阪南市・岬町にまたがる淡輪・箱作海岸とその後背地からなります。泉州地域を代表する「海と人との新しいふれあいの場」、また、海と人との慣れ親しむことができる「里海」として整備されました。主な施設としてビーチバレー競技場や、海辺の生き物や海浜植物などを観察できる人工磯浜などが整備されており、隣接しているヨットハーバー・府立青少年海洋センターなどのマリンスポーツ施設とともに「海洋性レクリエーションの拠点」となる公園をめざしています。

■地域資源④：箱作の自然海岸

当地はせんなん里海公園東側に隣接する海岸部で、「箱作自然海岸の西浜」とも呼称される砂地の自然海岸です。活動団体やボランティアグループによる清掃活動・ビーチコーミングや自然体験活動の場として利用・保全活動が進められています。

■地域資源⑤：西鳥取漁港

当地は阪南市鳥取、南海本線鳥取ノ荘駅より徒歩 5～7 分の位置にあり、かつては波有手（ぼうで）浜と呼ばれていた歴史ある港です。サワラ、シラス、イカナゴ、タコなど季節毎に様々な魚が捕れるほか、海苔や牡蠣が養殖されています。牡蠣シーズンの天候の良い土日には漁業組合直営のカキ小屋がオープンするなど、一般市民にも開かれた漁港となっています。

（２）当日の様子

■地域資源③：せんなん里海公園

当地では、ガラモ場の育生場、さとうみ磯浜、しおさい楽習館の 3 ヶ所を視察しました。

ガラモ場の育生場は、海に面しており通常は立ち入ることはできませんが、許可を得て当公園の指導員をつけ、ライフジャケット（公園にて貸与）を装着する形であれば、間近での観察ができます。視察時は、藻類の生育期にないため十分な藻場は確認できませんでしたが、間近で藻類に触れながら観察する体験はエコツアーとしても有意義な行程になると考えられました。

さとうみ磯浜では、海浜の生きものの観察ができます。埋め立て時間が経過し、砂を入れたり海水の出入りもあるように改良したなかで、環境が安定し生きものが生息するようになってきており、近年はハクセンシオマネキが増えてきています。幼稚園児以上が立ち入れることを想定しており、観察員の随行やライフジャケットを装着して観察を行うなど安全面への配慮も徹底しています。生きもの探しで見つけた生きものについては、近隣の小学校で育ててもらいような展開もしています。潮の干満が影響するため、時間を合わせて工程を組むことができればエコツアーの一環として組み込むことは可能と考えられました。

しおさい楽習館では、水槽展示されている大阪湾の生きものを観察できるほか、アクティビティとして「海藻・海草おしば」による作品作りができます。海藻・海草おしばとは、採取した海藻・海草を植物の腊葉標本を作る要領で作成した乾燥状態の海藻・海草です。自然素材としてこれを用いて、自由にアート作品を作成することができます。材料として使用するまでに乾燥させるには時間がかかるため、アクティビティとして作品作りを行う場合は基本的には予め当園職員により乾燥された素材を使用することになります。海藻・海草おしばを用いた作品作りは海藻・海草に関心をもってもらい良好な素材になると考えられ、室内作業となるため、エコツアーには雨天時のプログラムとして導入することも効果的と考えられました。

その他、同公園の南側には海岸林があり「うみべの森」として管理されていることや、市民団体による保全活動・自然観察会等についても説明を受けました。うみべの森の維持管理活動（通路清掃や草刈り、除伐、自然観察路整備等）は、ボランティア団体も協力して行っているようです。園内には、管理の中で出た樹木をストックするヤードがあり、堆肥にしたり、そこから発生したカブトムシの幼虫を夏に販売しているとのことでした。

■地域資源④：箱作の自然海岸

対象となる自然海岸は、せんなん里海公園の東端の隣接地に当たります。この自然海岸では、水深波打ち際から近い数メートルは砂地で、水深 3m 程の場所まで海草のアマモが生育しています。その先の海底はゴロ石状になっており、潮が引いた時には歩いていくこともできます。自然観察会では、ウエーダーやライフジャケットを装着し海草を観察したり、たも網を用いて水中をガサガサと探り魚類等の水生生物を採捕観察することができます。

視察当日には、打ち上げられたアマモ（海草）、アナアオサ（海藻、緑藻）、タマハハキモク（海藻、緑藻）、ユカリ（海藻、紅藻）、ホンダワラ（海藻、褐藻）等の実物を手に取りながら、生態や形状の特徴等について説明を受けました。その他、近隣の砂浜にはコアマモ（海草）もありますが、この場所の海草としてはアマモしかないこと、海中の海草や藻類が稚魚のゆりかごとなっており、かつて貴重種のタツノオトシゴが確認されたこともあること、大阪府内で砂浜が残っている場所は阪南市のみであること、岬町は岩場や石の浜になること等の説明を受けました。

海辺での説明の後、陸側の散策路、「阪南セブンの海の森」の看板前にて阪南の海浜の保全活動について説明を受けました。阪南セブンの海の森とは、セブン-イレブン記念財団が大阪府阪南市と 2018 年～2028 年の 10 年間の協定を結び、今回視察を行ったせんなん里海公園の東、尾崎、西鳥取取漁港西海岸を活動場所にアマモの保護保全活動を行い、阪南市と地域の方との産官学民協働で「山と森」と「海の森」の二つの視点から「CO2 削減」と「豊かな自然環境の再生」を進めているプロジェクトです。

■地域資源⑤：西鳥取漁港

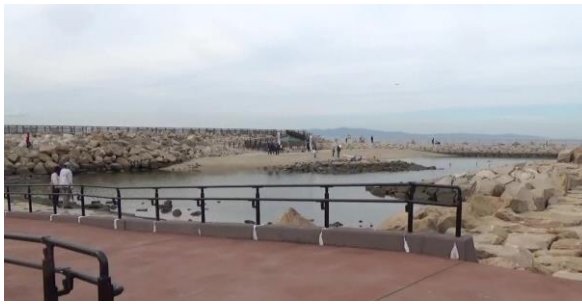
当地では、「チーム☆ガサ」のメンバーのほか、カキ小屋の運営を通じて人が集いともに楽しめる場づくり（地域のプラットホームづくり、地域循環共生圏の具現化）を目指す「株式会社漁師鮮度」（以下、同株式会社という）の方より当地の情報をいただきました。

場づくりの構想は、2016 年 10 月～2020 年 3 月に大阪府立大学、太平洋セメント（株）、NPO 法人大阪湾沿岸域環境創造研究センターの共同により実施された社会技術研究開発センター（RISTEX）が進める「持続可能な多世代共創社会のデザイン」研究開発プロジェクトの一つとして実施された「漁業と魚食がもたらす魚庭（なにわ）の海の再生」を社会実装した形です。

同株式会社の当漁港を利用した活動には、生業としてのカキ養殖事業・カキ小屋運営・飲食事業のほか、簾立て漁・定置網漁・底曳漁の体験等の観光漁業事業、シュノーケリング・ダイビング・釣り等のマリナクティビティ事業、アマモ場再生・魚食普及（料理教室等）・魚場環境再生・ブルーカーボンの創出・海洋教育支援・調査研究支援等の環境保全事業があるとのことでした。

いずれの訪問先も、地域資源を身近に体感することができる環境で、アクティビティにも優れており、海草・海藻の生育適期に配慮しエコツアーの訪問先として組み込むことは効果的と感じられました。

【写真】地域資源③：せんなん里海公園、地域資源④：箱作の自然海岸、地域資源⑤：西鳥取漁港 ※当日周った順に掲載

	
訪問地③ せんなん里海公園 駐車場とトイレ（一例）	訪問地③ せんなん里海公園 さとうみ磯浜
	
訪問地③ せんなん里海公園 ガラモ場の育生場	訪問地③ せんなん里海公園 海草・海藻おしばの作品
	
訪問地④ 箱作の自然海岸 砂浜の様子	訪問地④ 箱作の自然海岸 東側方向の遠景
	
訪問地④ 箱作の自然海岸 波打ち際に打ち上げられた海草・海藻等	訪問地④ 箱作の自然海岸 ガイド（チーム☆ガサ）の方々

	
訪問地④ 箱作の自然海岸 アマモ（海草の一種）	訪問地④ 箱作の自然海岸 アナアオサ（海藻の一種）
	
訪問地④ 箱作の自然海岸 陸側の散策路にある看板	訪問地③ せんなん里海公園 公園内南側の海岸植生（画像左手）
	
訪問地⑤ 西鳥取漁港 漁業体験を行う西側の浜（画像下部）	訪問地⑤ 西鳥取漁港 近海で生産したノリの加工状況
	
訪問地⑤ 西鳥取漁港 ガイド（チーム☆ガサ）より説明を受ける	訪問地⑤ 西鳥取漁港 ガイド（株式会社漁師鮮度）より説明を受ける